

研修医の声

塞の神祭り

新潟市民病院

新保 ひなた

寄稿用のこの文章を書いている今、2026年を迎えました。新潟市民病院の初期研修医2年目の新保ひなたと申します。熱心に指導して下さる上級医の先生方、悩みや成長を共有し合える研修医の仲間たち、優しく見守って下さる患者様や病院スタッフの皆様のおかげで、気づいたら初期研修プログラム終了が目前となっているこの頃です。無事にここまで働いてこられたことを、この場を借りて皆様に感謝申し上げます。

さて話は変わりますが、先日大学時代の友人らと偶然立ち寄った道の駅で、塞の神祭りがありました。多くの人が詰めかけ、竹で組み立てられた高さ14mの塞の神を取り囲んでいました。点火されると大量の煙があがり灰も降り落ちてきましたが、力強く燃え上がる姿に歓声があがりました。幼い頃一度見た以来だった行事に感銘を受け、帰ってから少し塞の神について調べてみました。

もともと塞の神とは、外部から侵入する災厄・疫病・悪霊を「塞ぐ」役割があり、境界を守る結界的存在でした。時代が下るにつれ、旅の安全・縁結び・子孫繁栄といった吉祥的な意味合いを帯び、地域により名称・姿・祭祀内容が大きく異なります。「どんど焼き」「賽の神」などとも呼ばれ小正月のお焚き上げ行事として、無病息災・五穀豊穰・一年の繁栄を願って全国各地で火祭りが行われますが、新潟県では特に冬の風物詩として深く根付いており、盛んに行われる地域が多いようです。残り火でスルメや餅を焼いて食べるのが特徴で、今回もスルメを焼いていた人が沢山いました。

試験勉強の対象や日々仕事として医療に携わっ

ていると忘れがちですが、先人たちの願いの延長線上に現在の医療技術があると思っています。今回無病息災を純粹に祈る伝統行事を目の当たりにして、その尊さを再認識できた気がします。また、そんな行事が根付いている地域で暮らしていることに誇りを感じました。より一層地域貢献できるよう、来年度から新潟市民病院後期研修医として今後も精進してまいります。最後に、今年の皆様のご健康とご多幸をお祈りして締めくくりたいと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。



塞の神祭り（道の駅国上、令和8年1月18日）